

# 県立高校の将来構想 (仮称)

— 中長期を見据えた魅力ある学校づくり —

素 案

平成27年12月 1 日

新潟県教育委員会



## はじめに

本県の中学校卒業生数は、昭和38年春の70,499人をピークに、減少傾向が続き、平成27年春には21,693人となっています。高校進学率は、平成16年以降、毎年99%を超え、中学校卒業生のほぼ全員が高校に進学する状況にありますが、今後も子ども数が減少する中で、高校入学者の減少が見込まれています。

また、今日では、本格的な人口減少社会の到来や市町村合併の進展、グローバル化や情報化が進む中での社会経済構造の変化、技術革新の急速な進展等により人々の価値観も多様化してきています。

このような状況を踏まえ、伝統文化を継承し、地域社会や地域産業の発展・振興を担う人材、高度な技術を追求し、明日の日本を支える人材、国際的な視野を備え、高い志をもってグローバル社会を切り拓く人材など、新たな人づくりを推進する教育が求められてきていることから、この度、中長期的なビジョンである『県立高校の将来構想 ―中長期を見据えた魅力ある学校づくり―』（以下、「将来構想」という。）を策定することとしました。

本構想の策定にあたっては、学識経験者や市町村、産業界、学校関係者の代表で構成する外部有識者会議を設置し、今後の本県高校教育のあるべき姿などについて様々なご意見をいただくとともに、県内外の中学生・高校生及びその保護者、教育関係者などを対象とした意識調査の結果などを踏まえ、中長期的な視点で県立高校のあり方を検討しました。本構想は、これからの高校教育の充実を目指す魅力的な学校づくりの方向性をまとめたものです。

県教育委員会としては、今後も、未来を切り拓く、たくましい人づくりを目指した教育を推進してまいります。県民の皆様には、社会の変化に対応した魅力ある学校づくりについてご理解とご支援をいただきますようお願いいたします。

# 素案の構成（目次）

I	「将来構想」の基本的な考え方	
1	「将来構想」の策定にあたって	1
	(1) 「将来構想」の趣旨	
	(2) 「将来構想」の期間等	
	(3) 「将来構想」の策定過程	
2	「将来構想」における留意すべき視点	2
	(1) 社会状況の変化への対応	
	(2) 中学校卒業生数の減少への対応	
	(3) 多様な生徒への対応	
3	「将来構想」の方針	3
	(1) 3つの基本方針	
	(2) 適正な学校規模	
	(3) 学校・学科の配置	
	(4) 県立高校と市立・私立高校との関係	
II	「将来構想」における高校のすがた	
1	目指す高校のすがた	8
	◇ 専門分野を探究する高校	
	◇ 学科総合型の産業高校	
	◇ 大学進学を重視した学究型の高校	
	◇ 総合選択制の高校	
	◇ エンカレッジの高校	
2	地域と連携した特色ある高校	9
III	「将来構想」における高校の配置	10

## Ⅳ エリアごとの構想

エリア①	11
＜新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村＞	
エリア②	15
＜新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町＞	
エリア③	19
＜長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村＞	
エリア④	23
＜十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町＞	
エリア⑤	27
＜糸魚川市、妙高市、上越市＞	
エリア⑥	31
＜佐渡市＞	

Ⅴ 再編整備の概要【平成30年度～平成39年度】	35
--------------------------	----

### 【資料編】

1 中学校卒業者数の推移【平成27年～平成39年】	40
2 「高等学校に関する調査」結果(抜粋)	41

# I 「将来構想」の基本的な考え方

## 1 「将来構想」の策定にあたって

### (1) 「将来構想」の趣旨

新潟県では、生徒一人一人の個性や能力を伸ばし、確かな学力、豊かな人間性やたくましさを育む教育を推進するため、平成14年12月に『中長期高校再編整備計画』を策定し、平成25年度までの再編整備の方向性を示しました。この計画に基づき、毎年、向こう3年間の具体的な内容を盛り込んだ年次計画案を公表し、県立高校(注1)の特色ある学校づくりを進めてきました。

同計画が終了した今日においても、人口の社会減への対応や人づくりの推進など、明日の新潟の飛躍につながる取組が引き続き課題となっています。また、産業界からは経済構造が変化する中で、即戦力となる人材の育成が求められています。

こうした中で、新たな価値を創造し、社会の各分野をリードする人づくりを推進することから、今後の学校・学科のあり方について、あらためて中長期的な視点に立った計画を策定することとしました。

### (2) 「将来構想」の期間等

地域の実情に応じた新たな学校・学科の設置や再編においては、検討期間も含め、中長期的な見通しが必要なことから、概ね10年程度の計画が不可欠と考え、本構想の計画期間を平成30年度から平成39年度までとしました。

本構想は、今後の県立高校のあるべき姿を示すものであり、具体的な内容は毎年公表する「3年ごとの計画」の中で策定していくこととします。

また、高校教育を取り巻く状況の変化や、国の制度改正などに伴い、必要に応じて見直しを行っていきます。

なお、本構想の計画期間が終了した後も、様々な社会情勢の変化や県としての新たな課題などに対応するため、平成40年度以降のビジョンも示していく必要があると考えています。

---

(注1) 本構想における「県立高校」とは、県立高等学校と県立中等教育学校のことを指します。

### (3) 「将来構想」の策定過程

本構想は、これからの県立高校がどうあるべきか、また、魅力と活力ある学校づくりをどう進めていくべきか、などについて様々な意見をお聞きし、そこで示された課題等も踏まえ、策定することとしました。

このため、学識経験者や市町村、産業界、学校関係者の代表で構成する外部有識者会議を開催するとともに、県内すべての市町村長、市町村教育委員会教育長、公立学校(注2)の校長及びPTA会長、公立中学校や高校の生徒及び保護者を対象として、「高校の再編整備の必要性」、「高校の適正規模」、「魅力を感じる高校像」などについてアンケート調査を実施しました。また、首都圏及び隣接県の中学生・高校生とその保護者に対しても同様の調査を行いました。

こうした意見を踏まえ、本構想の素案を策定後、パブリックコメントや各地域での説明会を実施し、あらためて県民の皆様にご意見を伺い、成案としたものです。

(予定)

## 2 「将来構想」における留意すべき視点

### (1) 社会状況の変化への対応

高度情報化の進展や、社会・経済のグローバル化、技術革新などに伴う産業構造の変化に加え、地域社会や家族の変容など、社会が急速に変化しています。

一方で、本県においては、人口減少・少子高齢化が進展しており、このまま推移すれば、平成26(2014)年のおよそ231万人の県人口が、平成72(2060)年には134万人にまで減少すると見込まれており(注3)、将来の労働力人口の減少や地域活動の担い手不足による地域経済の縮小、地域の活力の低下などが懸念されています。

こうした中、技術革新を生み出す人材や世界的視野で行動できる人材の育成と、人口減少下にあっても伝統ある技能・技術や文化を継承しながら、地域の産業や地域社会を支える人づくりを推進する必要があると考えています。

---

(注2) 公立学校は、公立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校のことをいいます。

(注3) 平成72年の県人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づくものです。

## (2) 中学校卒業生数の減少への対応

本構想の最終年にあたる平成39年春の中学校卒業生数は、およそ17,800人と見込まれ、平成27年春の21,693人と比べて、3,900人程度減少すると推計されています。この減少数を1クラス40人として換算すると97学級に相当し、1学年6学級規模の学校で、およそ16校分にあたります。

こうした状況にあっても、適正な学校規模を確保しつつ、県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりを進め、教育の質的な向上や、学校の活性化などを図る必要があると考えています。

## (3) 多様な生徒への対応

これまで、生徒の多様なニーズに対応するため、単位制による定時制や総合学科、中高一貫教育校など様々な特色ある学校・学科を設置し、中途退学率が低下するなど一定の成果があったとの評価を得ています。

しかしながら、将来の目標をもって何事にも意欲的に取り組む生徒がいる一方、少数とはいえ、高校生活に明確な目的を見いだせない生徒もいるなど、学習や将来に対する意欲が二極化する傾向にあります。また、スマートフォンなどの通信機器の普及により、生徒個人が多岐にわたる情報を容易に収集できる環境にあり、興味・関心も多様化しています。さらに、各学校には、不登校生徒や特別な支援を要する生徒も増えてきています。

こうした中、個に応じた教育が一層求められており、様々な生徒に対応できる学校づくりが必要であると考えています。

# 3 「将来構想」の方針

## (1) 3つの基本方針

本県では、社会に生きる中で必要な基礎的能力の習得を図るとともに、一人一人の個性を尊重し、伸ばしていく「個を伸ばす教育」を、教育の基本理念として、教育施策のより積極的で具体的な展開を図る「新潟県教育振興基本計画」を策定しました。

この計画では、「ふるさとへの愛着と誇りを胸に、粘り強く挑戦し未来を切り拓く、たくましいひとづくり」を掲げ、未来を切り拓き、これからの県の発展に参画できるような人材を育成することを目指しています。

社会状況の変化、中学校卒業生数の減少、多様な生徒への対応などの課題を踏まえ、計画の実現に向けて本構想の基本方針を次の3点としました。

### ① 様々な分野で活躍できるグローバル人材を育成する教育の推進

国際的な視野を広げ、自身で考え判断し、主体的に行動する力や、他者と協調・協働する力の養成に努めます。

### ② 県外の生徒も学びたくなる魅力的な学校づくりの推進

他県にはなく、県外の生徒も魅力を感じる学校・学科などの設置により、高校教育の一層の活性化に努めます。

### ③ 地域との連携を深化させた人づくりの推進

地域への理解を深め、郷土愛を育むことで、地域の産業や地域社会を支える人づくりの推進に努めます。

## (2) 適正な学校規模

高校段階では、様々な人とふれ合う中でコミュニケーション能力を身に付け、他者と協働しながら様々な課題を解決していく資質や能力を育むことが期待されていることから、幅広い教育活動を提供し、生徒一人一人の能力を最大限に伸ばす教育環境の整備が求められています。

こうしたことから、適正な学校規模を1学年あたり4～8学級(注4)として、多様な科目が展開できるよう一定の教員数を確保するなどして、教育の質的な向上と学校の活性化を図ることを基本とします。

1学年あたり4～8学級のメリットとして、

- ◇ 多様な人間関係の中で切磋琢磨する機会が増えること
- ◇ 一人一人の興味・関心や進路希望に応じて選択できる科目が増えること
- ◇ 多様な部の設置や部員数の確保が可能となり、部活動が充実すること

などがあげられることから、本構想の方針を踏まえた再編整備を進め、学校規模の適正化に努めていきます。

なお、適正規模に満たない学校については、他校との統廃合を検討していきますが、他にはない特色ある教育活動を展開する上で、あえて小規模が妥当とする学校もあり得ると考えています。

---

(注4) 全国では、42都道府県が高校の適正規模の基準を設けており、そのうち25道県が1学年あたり4～8学級を適正規模としています。(新潟県教育庁高等学校教育課調べ)

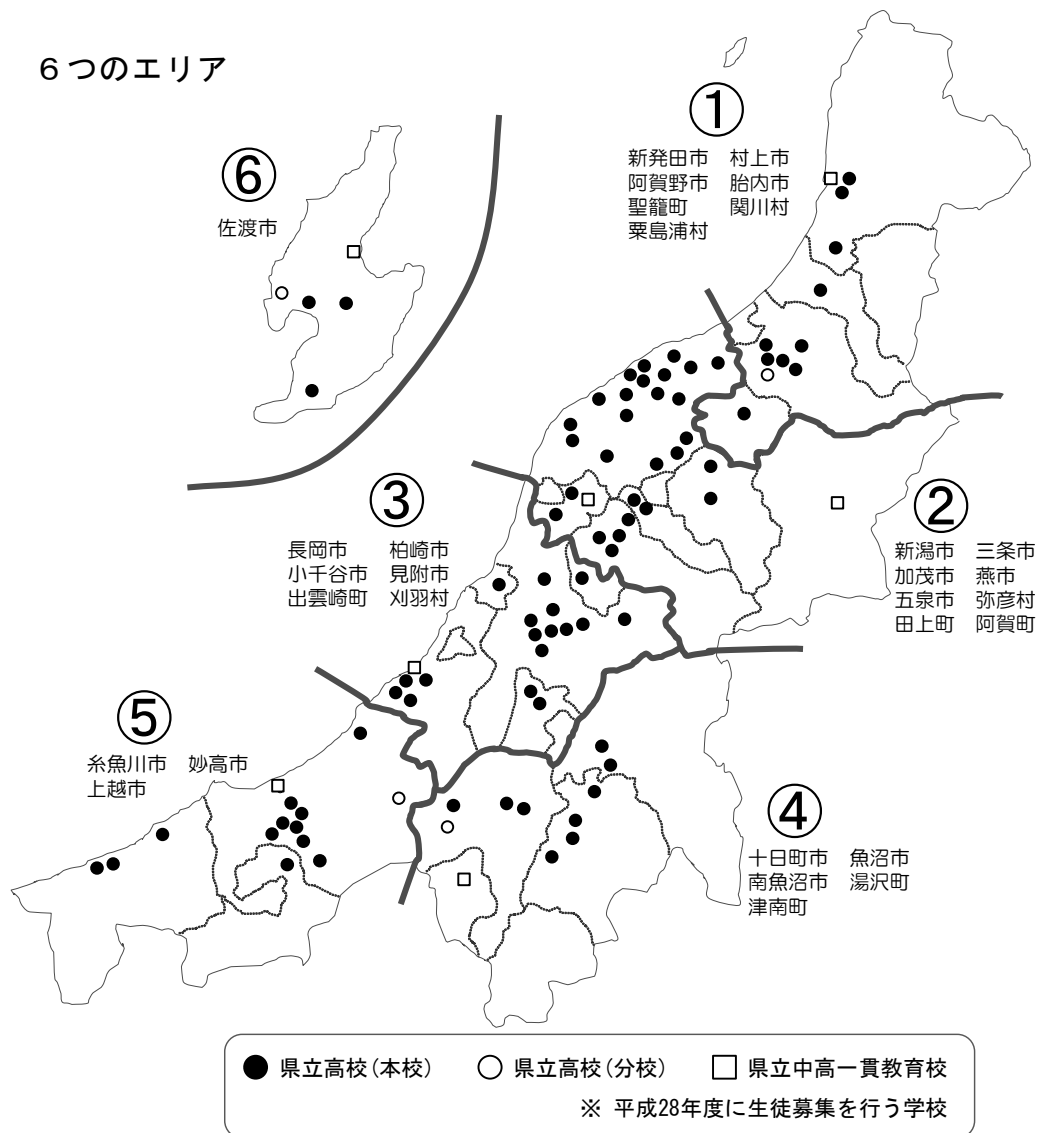
### (3) 学校・学科の配置

本県では、平成19年に「新潟県公立高等学校の通学区域に関する規則」を廃止しましたが、その後も、従来の通学区域を基にした8つのエリアごとの状況を踏まえ、再編整備計画や募集学級計画を策定してきました。

現在では、市町村合併が進み、かつての112市町村(注5)から30市町村となり、県民の意識や生活圏などに様々な変化があらわれてきています。これまでのエリアでは1つの市が複数のエリアにまたがっていることや、通学範囲が従来に比べて広域化していることなどから、本構想の策定にあたっては、様々な観点で検討した結果、現在の市町村を基に6つのエリアに分けて考えることとしました。

それぞれのエリアの状況を踏まえ、必要な学校・学科等をバランスよく配置したいと考えています。

#### ◆ 6つのエリア



(注5) 平成12年12月現在の市町村の数です。

【参考】これまでの地域区分

下表の市町村名は、平成15年4月現在のものです。

旧地域	市 町 村 名
新発田・村上地域	新発田市、村上市、豊栄市 北蒲原郡安田町、京ヶ瀬村、水原町、笹神村、豊浦町、聖籠町、加治川村、紫雲寺町、中条町、黒川村 岩船郡関川村、荒川町、神林村、朝日村、山北町、粟島浦村
新津・五泉地域	新津市、五泉市 中蒲原郡小須戸町、村松町 東蒲原郡津川町、鹿瀬町、上川村、三川村
新潟地域	新潟市 中蒲原郡横越町、亀田町 西蒲原郡味方村
三条・西蒲地域	三条市、加茂市、燕市、白根市 西蒲原郡岩室村、弥彦村、分水町、吉田町、巻町、西川町、潟東村、月潟村、中之口村 南蒲原郡田上町、下田村、栄町
長岡・柏崎地域	長岡市、柏崎市、見附市、栃尾市 南蒲原郡中之島町 三島郡越路町、三島町、与板町、和島村、出雲崎町、寺泊町 古志郡山古志村 刈羽郡高柳町、小国町、刈羽村、西山町
魚沼地域	小千谷市、十日町市 北魚沼郡川口町、堀之内町、小出町、湯之谷村、広神村、守門村、入広瀬村 南魚沼郡湯沢町、塩沢町、六日町、大和町 中魚沼郡川西町、津南町、中里村 東頸城郡松代町、松之山町
上越地域	糸魚川市、新井市、上越市 東頸城郡安塚町、浦川原村、大島村、牧村 中頸城郡柿崎町、大潟町、頸城村、吉川町、妙高高原町、中郷村、妙高村、板倉町、清里村、三和村 西頸城郡名立町、能生町、青海町
佐渡地域	両津市 佐渡郡相川町、佐和田町、金井町、新穂村、畑野町、真野町、小木町、羽茂町、赤泊村

#### (4) 県立高校と市立・私立高校との関係

新潟市では、全日制普通科系の高校、単位制による定時制課程の高校、中等教育学校の3校を設置しています。

また、私立高校は、全日制普通科系の高校や通信制課程の高校など19校があり、それぞれ建学の精神や教育理念に基づき、特色ある教育活動を展開しています。

県では、毎年、県立高校と市立・私立高校及び中学校の関係者が意見交換をする場を設け、中学校卒業生数の見通しや、各学校の入学状況等について情報交換を行っているところです。

今後は、県立高校と市立・私立高校における募集学級数のあり方なども課題と考えています。

#### 【参考】県立高校と市立・私立高校の募集定員比率の推移

年 春	平成17年春	平成22年春	平成27年春
中学校卒業生数 (5年前との差)	25,480人 —	24,036人 (▲1,444人)	21,693人 (▲2,343人)
県立高校の定員比率	78.7%	78.6%	77.2%
市立高校の定員比率	2.9%	2.6%	2.3%
私立高校の定員比率	18.4%	18.8%	20.5%

※ 市立高校とは、新潟市立の高校・中等教育学校後期課程のことです。

## Ⅱ 「将来構想」における高校のすがた

### 1 目指す高校のすがた

「将来構想」における高校のすがたを、将来、新潟県を支える有為な人づくりや、これからの高校に求められる役割を踏まえ、以下の5つのタイプとして位置付けることとしました。

#### ◇ 専門分野を探究する高校

専門分野を探究し、社会の第一線で活躍する人材を育成する高校です。

本県の専門教育における中心的な役割を担い、地域の産業界や大学などの高等教育機関との連携を図り、高度な専門的知識や技術・技能を身に付けさせたいと考えます。

また、世界に誇ることができる日本の技術を広く海外に発信できるよう、グローバルな視点をもって、産業界をリードする人材の育成に努めていきます。

#### ◇ 学科総合型の産業高校

複数の専門学科からなり、学科の枠を越えた学習も可能な高校です。

農業・工業・商業などの専門分野における知識や技術・技能を身に付けることに加え、他学科の学習も選択できる仕組みにより、学科横断的な学習が可能になると考えます。

農業分野における6次産業化に対応できる人材や、工業分野における企業経営のノウハウを持った起業家など、新たなニーズを捉え、産業界で活躍できる人材の育成に努めていきます。

#### ◇ 大学進学を重視した学究型の高校

生徒のほぼ全員が大学に進学する高校です。

高校卒業後も、より高いレベルの課題に挑戦し、主体的に研究していく人材を育てます。そのため、確かな学力や幅広い知識を身に付けさせることはもちろん、社会のグローバル化が加速する中、語学力とコミュニケーション能力の向上を図るとともに、我が国や諸外国の文化に対する理解を深め、県や国のリーダーとして社会の様々な分野で活躍できる人材の育成に努めていきます。

#### ◇ 総合選択制の高校

普通科目とともに、専門的な知識や技能を学ぶ科目を選択できる高校です。

生徒の多様な進路希望や興味・関心などに対応するため、体験的な学習や専門的な学習が可能となるコースなどを設置します。

なお、専門的な知識や技能を学ぶにあたっては、地元産業界と連携し、インターンシップやデュアルシステムなどを積極的に進め、地元への就職の他、大学や専門学校への進学も目指し、地域の産業を支える人材の育成に努めていきます。

#### ◇ エンカレッジ(注6)の高校

生徒の様々な学習歴や適性に柔軟に対応する高校です。単位制による定時制課程や通信制課程の高校が、このタイプにあたります。

生徒の多様化が進む中、特別な支援を要する生徒や、学び直しを必要とする生徒に対する教育へのニーズがますます高まっています。

きめ細かな学習指導や相談体制の充実を図るとともに、キャリア教育等をおして、一人一人の個性を尊重し、豊かな人間性や社会性を育むことに努めていきます。

## 2 地域と連携した特色ある高校

上記の5つのタイプの高校の中には、地域との連携をより深化させ、他にはない特色ある教育を実践する高校も想定しています。

これらの学校では、市町村や地元企業などと連携した特色ある教育活動により、地域産業の振興や社会の発展に貢献できる人材の育成を目指したり、地域との密接な連携により、コミュニティへの参画や地域課題の解決をおして、一人一人の能力を育むとともに、地域の活性化につなげたりする取組が行われるものと考えます。

---

(注6) 英語のencourage(勇気を与える、励ます)をイメージした学校像を表しています。

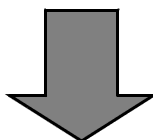
### Ⅲ 「将来構想」における高校の配置

高校の配置にあたっては、3つの基本方針に従い、6つのエリアごとに検討し、「Ⅱ 「将来構想」における高校のすがた」にある5つのタイプの高校をバランスよく配置することに努めます。

以下の表では、学級数を基にしたタイプ別のおおよその割合を示しました。

#### ◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学 科 名 (学級数)	普通科系 (245)	中高一貫 教育校 (15)	専門学科系 (90)	総合学科 (41)	定時制 (18)	中学校 卒業生数 21,236人
割 合 (%)	59.9	3.7	22.0	10.0	4.4	募集学級計 409
	63.6		32.0		4.4	



#### ◆ 平成39年春のすがた

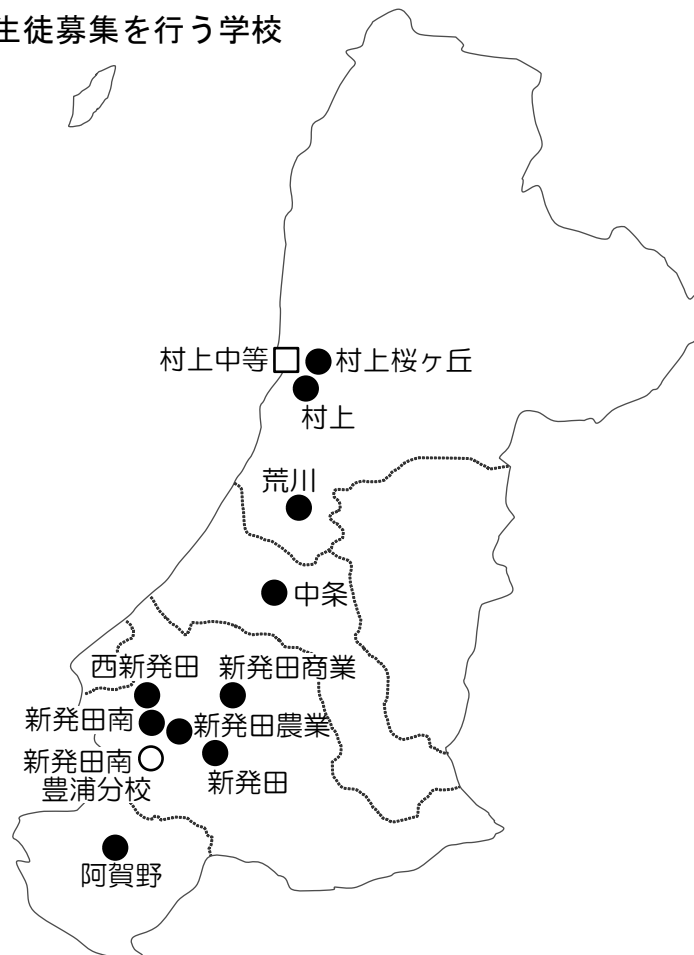
高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業生数 17,790人
割 合 (%)	15	10	25	45	5	募集学級計 330
	50			45	5	

## Ⅳ エリアごとの構想

### エリア①

＜新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村＞

#### ◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



#### ◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km <sup>2</sup> )	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
新発田市	98,880	532.82	7.4%	29.4%	62.0%	農産物加工品、酒、機械・精密電子部品、窯業・土石製品、生産用・はん用機械器具
村上市	63,016	1174.24	9.7%	31.2%	58.7%	航空機内装品、菓子、米菓、日本酒、木製建材、越後スギブランド材、建具、塩引鮭、堆朱、しな布
阿賀野市	43,864	192.74	9.9%	33.8%	53.8%	瓦、陶器、石材、乳製品、めん類、地ビール、半導体部品、米菓、日本酒、もち、豆腐
胎内市	30,200	265.18	11.1%	35.3%	53.3%	変圧器、メタクリル樹脂、自動車用装飾品、洋傘、寝具、ニット製品、油脂用精製剤、太陽電池製造装置、米粉
聖籠町	13,907	37.58	9.5%	35.4%	54.4%	電気、ガス、水産加工食品
関川村	5,958	45.17	20.2%	30.5%	49.1%	ニット製品、電気機械部品、セメント製造品
粟島浦村	368	9.78	33.8%	8.3%	57.6%	水産食料品
エリア計 (対県割合)	256,193 (11.1%)	2257.51 (18.3%)	9.3%	31.6%	58.0%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「理数教育重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西新発田高校をエンカレッジの高校に改組する。</li> <li>・新発田南高校豊浦分校を募集停止とする。</li> </ul>
平成31年度 ↳ 平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校を総合選択制の高校に改組する。</li> <li>・メディカルコースを設置する。</li> </ul>
平成35年度 ↳ 平成39年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。</li> <li>・専門学科系の高校を統合し、学科総合型の産業高校を設置する。</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した特色ある高校を検討する。</li> <li>・医療専攻の設置を検討する。</li> </ul>

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科名 (学級数)	普通科系 (27)	中高一貫 教育校 (2)	専門学科系 (13)	総合学科 (4)	定時制 (3)	中学校 卒業者数 2,435人
割合(%)	55.1	4.1	26.5	8.2	6.1	募集学級計 49
	59.2		34.7		6.1	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 1,944人
割合(%)	15	20	20	35	10	募集学級計 38
	55			35	10	

【参考】

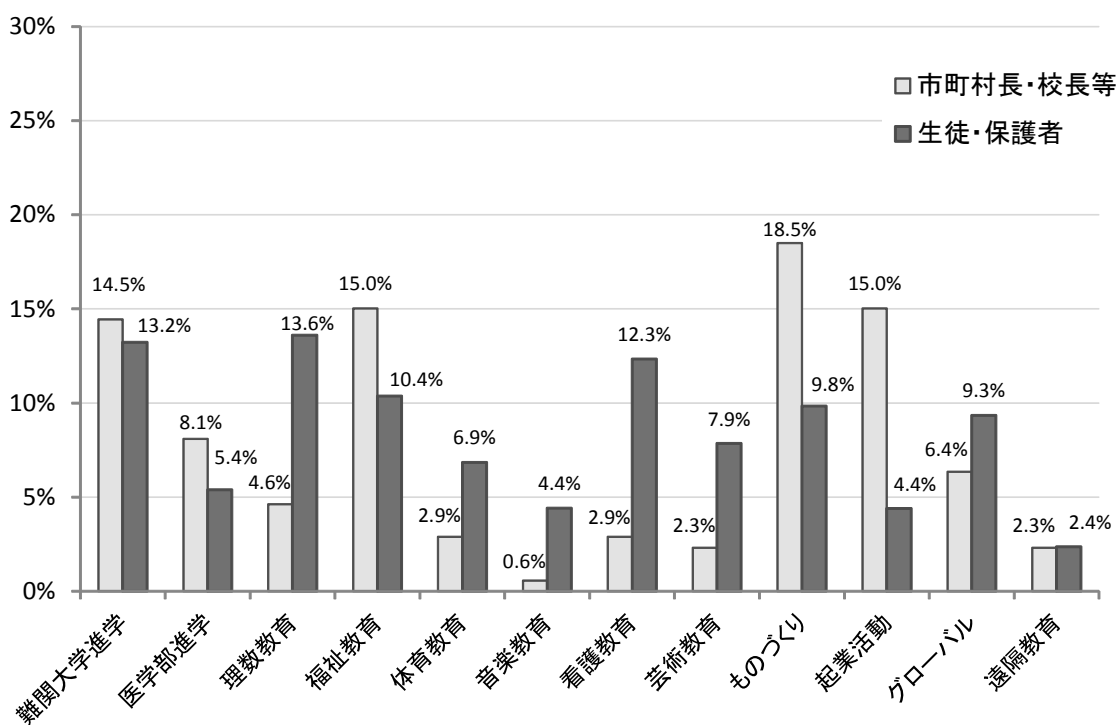
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】  
 以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

---

【選択肢】

1 難関大学進学重視型	2 医学部進学重視型	3 理数教育重視型
4 福祉教育重視型	5 体育教育重視型	6 音楽教育重視型
7 看護教育重視型	8 芸術教育重視型	9 ものづくり重視型
10 起業活動重視型	11 グローバル教育重視型	12 遠隔教育型



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

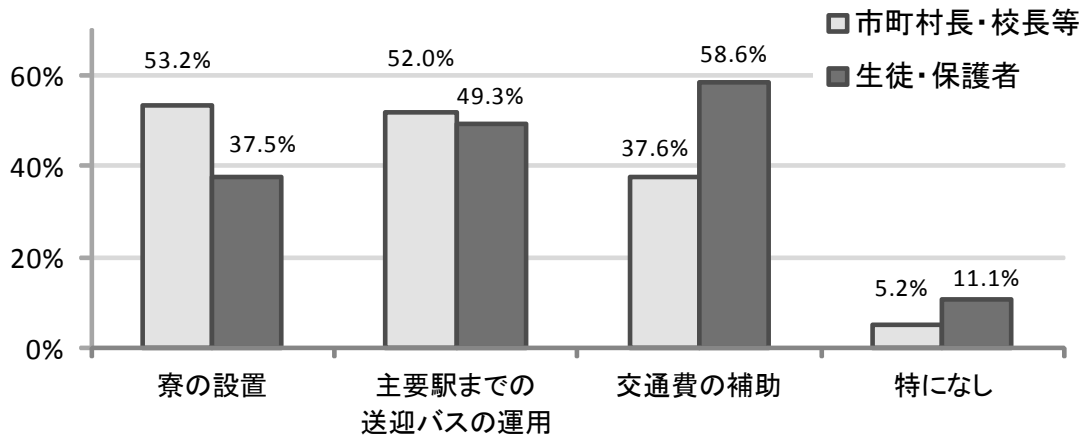
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問 2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

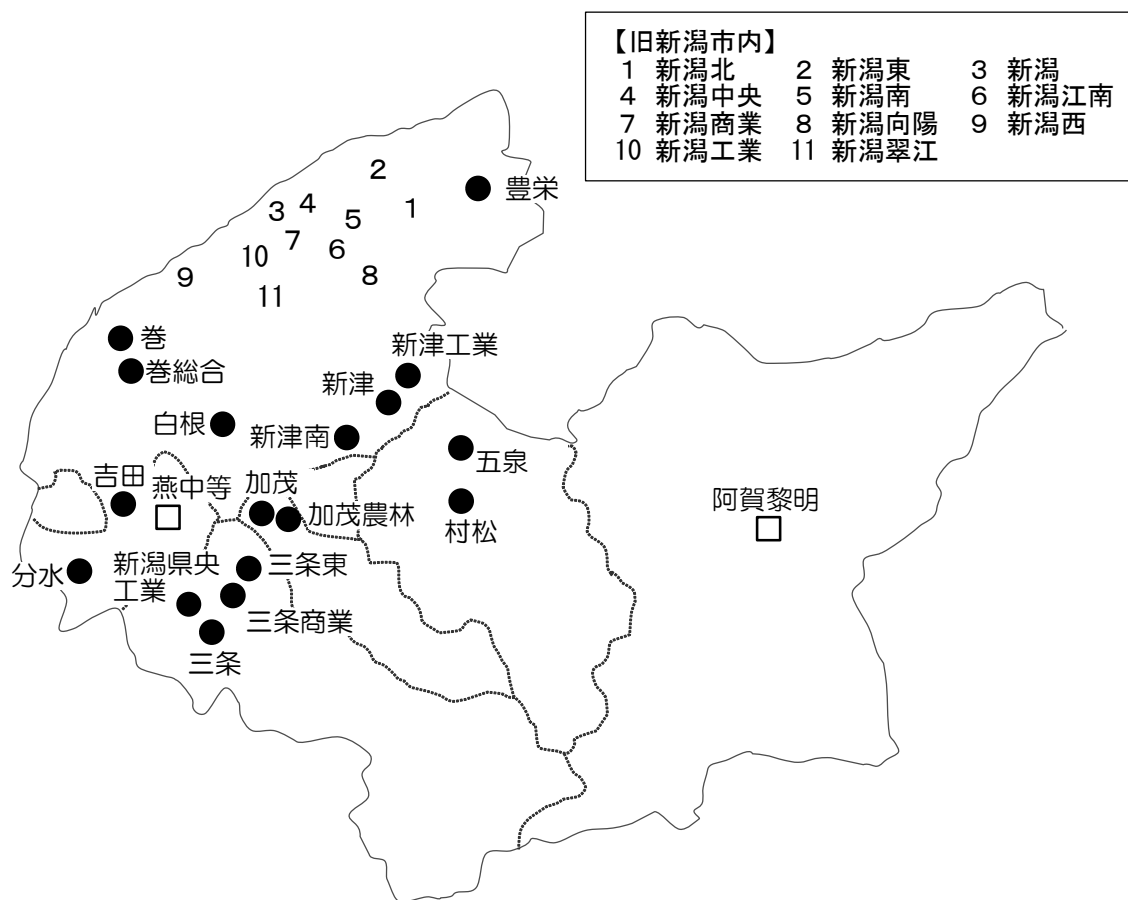
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

## エリア②

＜新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町＞

### ◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



### ◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km <sup>2</sup> )	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
新潟市	808,143	726.10	3.6%	21.3%	71.0%	米菓、水産練製品、清酒、製紙、金属製品、化学工業製品
三条市	99,285	432.01	4.2%	35.3%	57.8%	作業工具、利器工器具、金型・機械部品、冷暖房機器
加茂市	28,269	133.68	7.6%	35.6%	55.7%	桐箆筥、和洋家具、木工製品、家電製品、ニット製品
燕市	80,409	110.94	3.8%	41.0%	51.7%	金属ハウスウェア(テーブルウェア、キッチンウェア)、金属洋食器
五泉市	51,966	351.87	8.3%	37.8%	53.0%	ニット製品、絹織物
弥彦村	8,288	25.17	7.9%	35.3%	56.5%	金属洋食器
田上町	12,311	31.71	7.0%	33.1%	59.7%	焼瓦、木工製品、ニット製品
阿賀町	12,033	952.88	8.5%	32.4%	58.7%	清酒、山菜加工品、味噌、漬物、切もち、産業用部品、ベントナイト
エリア計 (対県割合)	1,100,704 (47.6%)	2764.36 (22.4%)	4.1%	25.7%	66.5%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	・阿賀黎明中学校を募集停止とする。
平成31年度 ↳ 平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校をエンカレッジの高校に改組するとともに、通信制課程を設置する。</li> <li>・普通科系の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。</li> <li>・普通科系の高校と専門学科系の高校を統合し、専門分野を探究する高校を設置する。</li> <li>・メディカルコースを設置する。</li> </ul>
平成35年度 ↳ 平成39年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。</li> <li>・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。</li> <li>・専門学科系の高校を統合し、学科総合型の産業高校を設置する。</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した特色ある高校を検討する。</li> <li>・先端産業を学ぶ学科の設置を検討する。</li> </ul>

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学 科 名 (学級数)	普通科系 (121)	中高一貫 教育校 (4)	専門学科系 (34)	総合学科 (11)	定時制 (2)	中学校 卒業者数 9,933人
割 合 (%)	70.3	2.3	19.8	6.4	1.2	募集学級計 172
	72.6		26.2		1.2	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 8,616人
割 合 (%)	15	5	25	50	5	募集学級計 143
	45			50	5	

【参考】

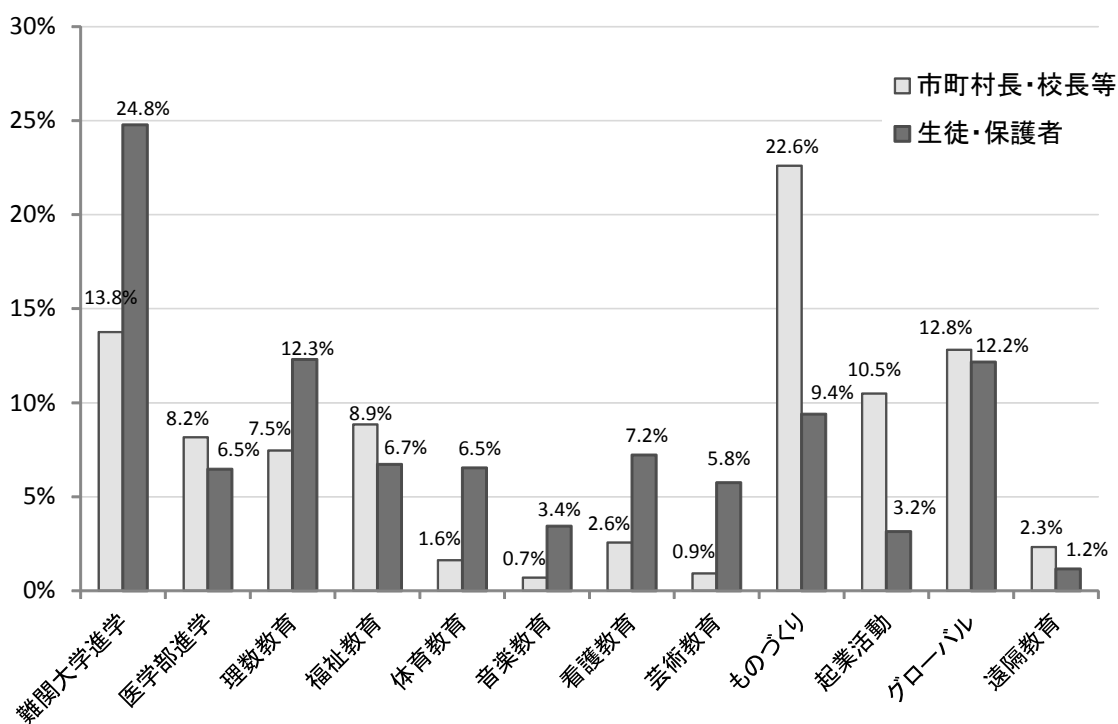
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】  
 以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

---

【選択肢】

1 難関大学進学重視型	2 医学部進学重視型	3 理数教育重視型
4 福祉教育重視型	5 体育教育重視型	6 音楽教育重視型
7 看護教育重視型	8 芸術教育重視型	9 ものづくり重視型
10 起業活動重視型	11 グローバル教育重視型	12 遠隔教育型



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

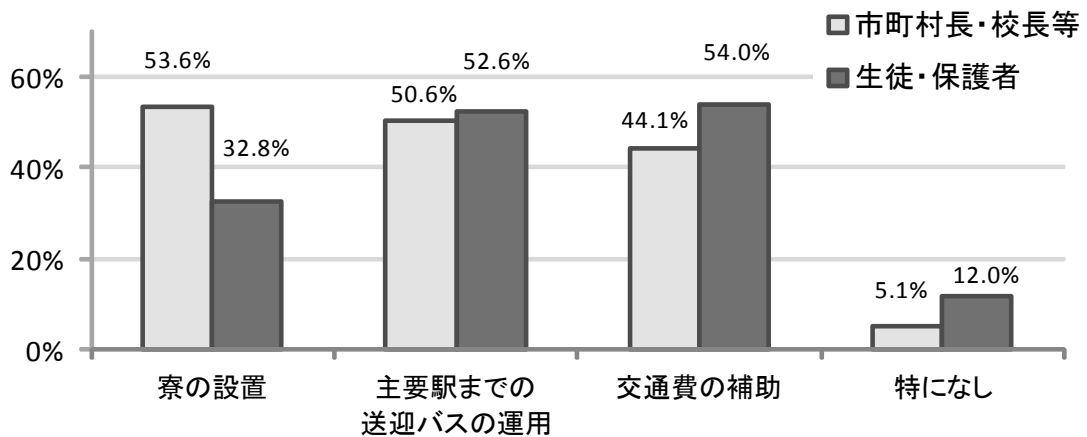
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者



◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 ↳ 平成34年度	・普通科系の高校を統合し、大学進学を重視した学究型の高校を設置する。
平成35年度 ↳ 平成39年度	・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。
検討事項	・地域と連携した特色ある高校を検討する。 ・医療専攻の設置を検討する。

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科名 (学級数)	普通科系 (40)	中高一貫 教育校 (2)	専門学科系 (21)	総合学科 (11)	定時制 (6)	中学校 卒業者数 4,141人
割合(%)	50.0	2.5	26.3	13.7	7.5	募集学級計 80
	52.5		40.0		7.5	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 3,519人
割合(%)	30	0	15	45	10	募集学級計 66
	45			45	10	

【参考】

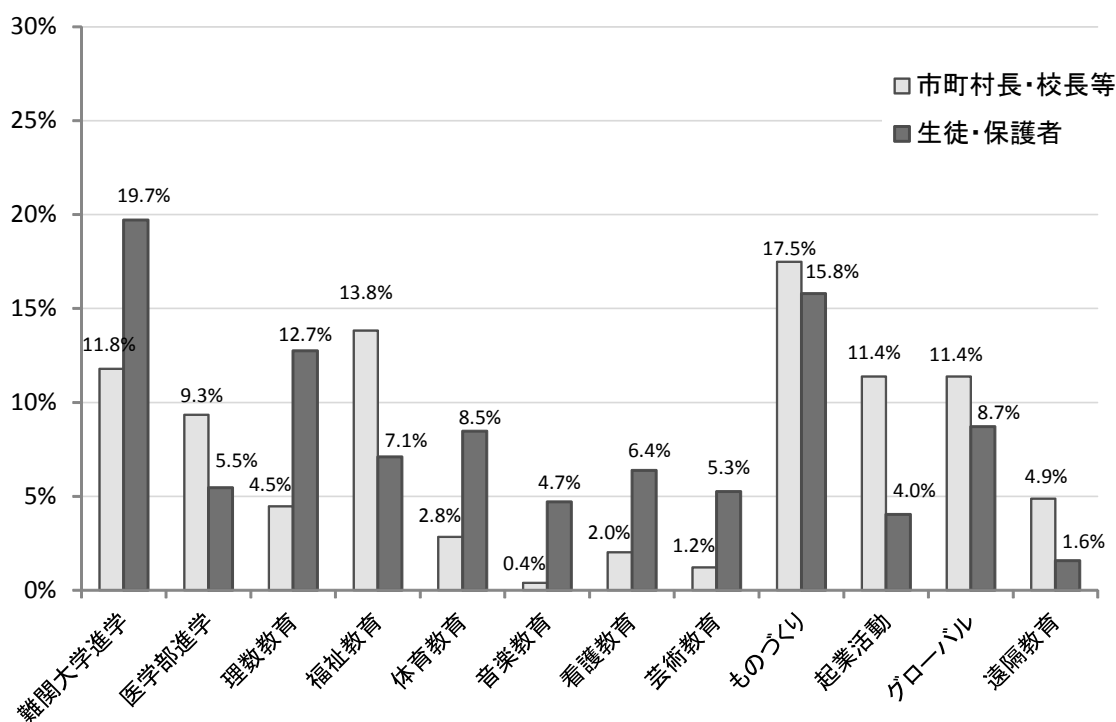
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】  
 以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

---

【選択肢】

1 難関大学進学重視型	2 医学部進学重視型	3 理数教育重視型
4 福祉教育重視型	5 体育教育重視型	6 音楽教育重視型
7 看護教育重視型	8 芸術教育重視型	9 ものづくり重視型
10 起業活動重視型	11 グローバル教育重視型	12 遠隔教育型



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

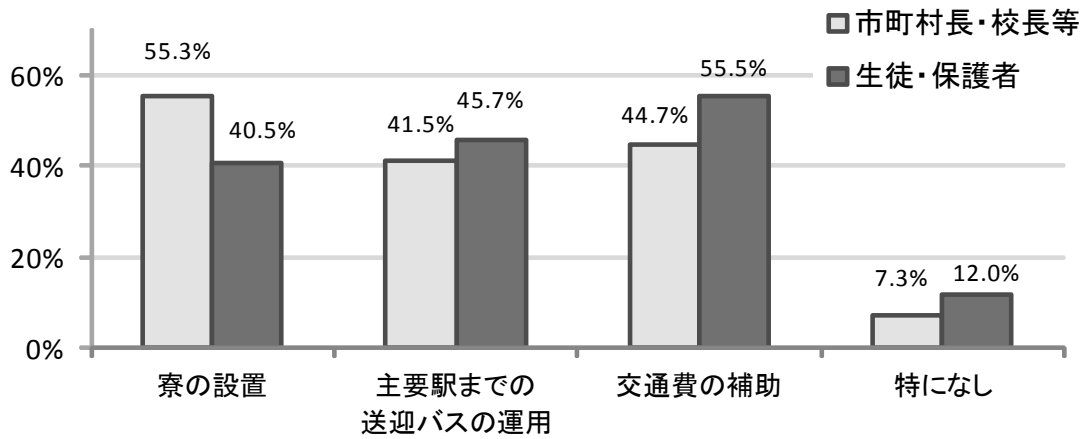
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

## エリア④

＜十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町＞

### ◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



### ◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km <sup>2</sup> )	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
十日町市	55,698	590.39	12.4%	31.3%	55.1%	絹織物、そば
魚沼市	37,805	946.93	10.9%	33.3%	54.5%	食料品、清酒、電子部品・デバイス、はん用機械
南魚沼市	59,429	584.55	12.0%	29.6%	58.3%	自動車部品、産業用機械、清酒、織物
湯沢町	8,264	357.00	4.7%	13.8%	80.9%	清酒
津南町	10,197	170.21	27.4%	23.2%	49.3%	木材、木製品、電気機械器具、窯業、土石製品、食料品
エリア計 (対県割合)	171,393 (7.4%)	2649.08 (21.5%)	12.5%	29.8%	56.9%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 ↳ 平成34年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。</li> <li>・普通科系の高校をエンカレッジの高校に改組する。</li> </ul>
平成35年度 ↳ 平成39年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通科系の高校を総合選択制の高校に改組する。</li> </ul>
検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した特色ある高校を検討する。</li> <li>・専門学科系の高校の改組を検討する。</li> </ul>

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科名 (学級数)	普通科系 (26)	中高一貫 教育校 (2)	専門学科系 (5)	総合学科 (5)	定時制 (4)	中学校 卒業者数 1,567人
割合(%)	61.9	4.8	11.9	11.9	9.5	募集学級計 42
	66.7		23.8		9.5	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 1,230人
割合(%)	0	15	35	45	5	募集学級計 32
	50			45	5	

【参考】

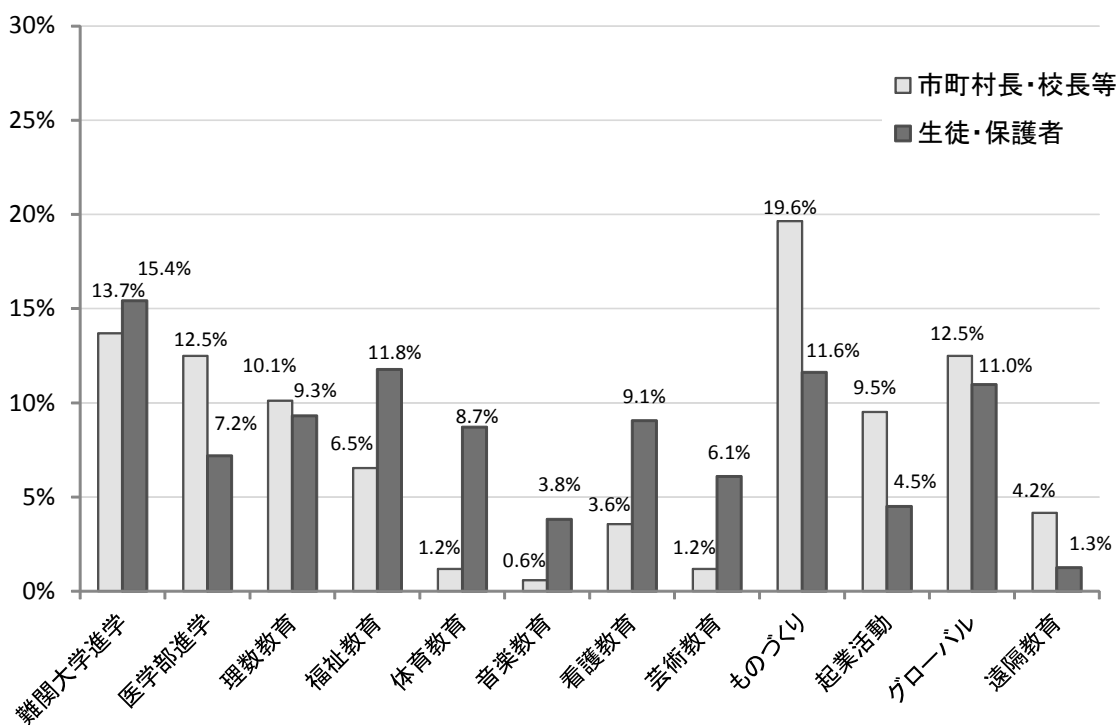
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】

以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。  
(ひとつだけ)

【選択肢】

- |             |               |            |
|-------------|---------------|------------|
| 1 難関大学進学重視型 | 2 医学部進学重視型    | 3 理数教育重視型  |
| 4 福祉教育重視型   | 5 体育教育重視型     | 6 音楽教育重視型  |
| 7 看護教育重視型   | 8 芸術教育重視型     | 9 ものづくり重視型 |
| 10 起業活動重視型  | 11 グローバル教育重視型 | 12 遠隔教育型   |



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

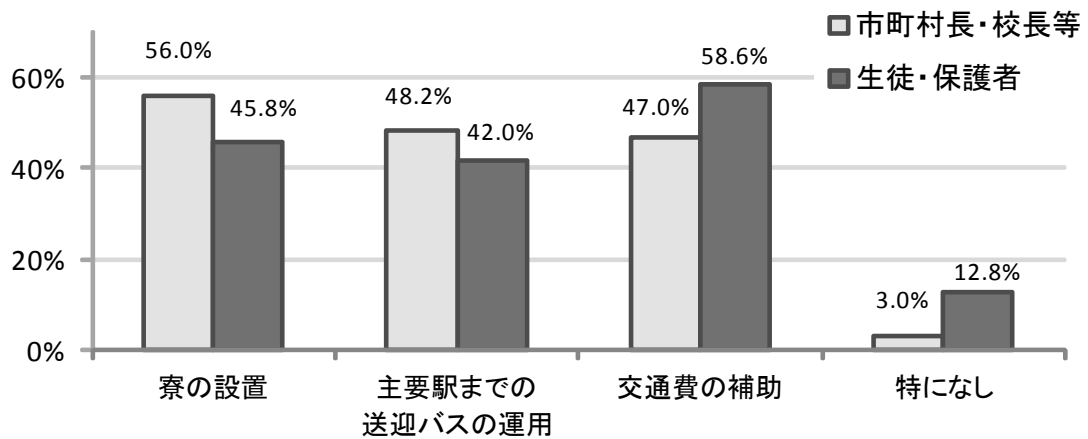
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

## エリア⑤

＜糸魚川市、妙高市、上越市＞

### ◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



### ◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km <sup>2</sup> )	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
糸魚川市	45,140	746.24	6.4%	37.6%	56.0%	化学工業製品、窯業製品、電気機械器具
妙高市	33,588	445.52	7.2%	32.7%	57.9%	電子部品、酒、化学工業製品、石油ファンヒーター、エアコン
上越市	197,708	973.61	5.3%	29.9%	62.0%	化学製品、非鉄金属、鉄鋼、プラスチック製品、金属製品、一般機械器具、電子部品、日本酒、味噌
エリア計 (対県割合)	276,436 (11.9%)	2165.37 (17.6%)	5.7%	31.5%	60.5%	

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「ものづくり重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	・上越総合技術高校の学科を改編する。
平成31年度 ↳ 平成34年度	・普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、総合選択制の高校を設置する。
平成35年度 ↳ 平成39年度	・専門学科系の高校を統合し、学科総合型の産業高校を設置する。

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した特色ある高校を検討する。</li> <li>・医療専攻の設置を検討する。</li> </ul>
------	--

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科名 (学級数)	普通科系 (24)	中高一貫 教育校 (3)	専門学科系 (17)	総合学科 (7)	定時制 (2)	中学校 卒業者数 2,671人
割合(%)	45.3	5.7	32.1	13.1	3.8	募集学級計
	51.0		45.2		3.8	53



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 2,083人
割合(%)	15	20	20	40	5	募集学級計
	55			40	5	40

【参考】

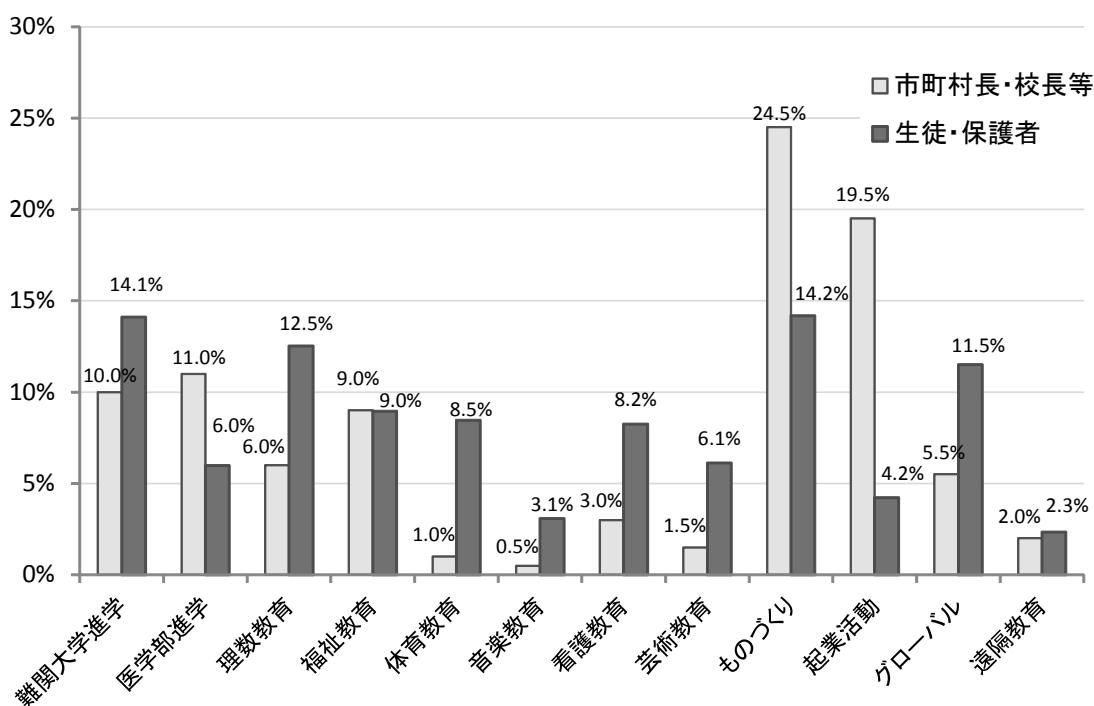
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】  
 以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

---

【選択肢】

1 難関大学進学重視型	2 医学部進学重視型	3 理数教育重視型
4 福祉教育重視型	5 体育教育重視型	6 音楽教育重視型
7 看護教育重視型	8 芸術教育重視型	9 ものづくり重視型
10 起業活動重視型	11 グローバル教育重視型	12 遠隔教育型



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

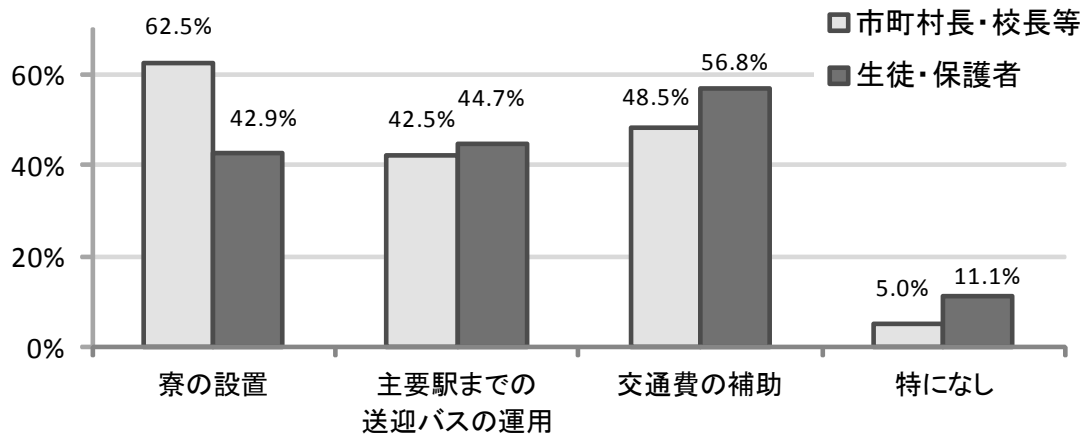
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。（複数回答）

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

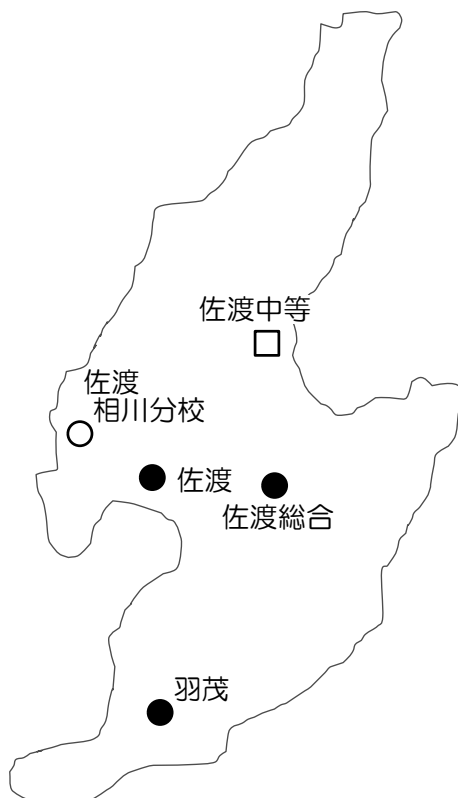
生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

## エリア⑥

<佐渡市>

### ◆ 平成28年度に生徒募集を行う学校



### ◆ エリアの状況

市町村名	人口	面積 (km <sup>2</sup> )	産業構造(就業人口構成比)			主要製造品
			第1次産業	第2次産業	第3次産業	
佐渡市 (対県割合)	58,221 (2.5%)	855.34 (6.9%)	21.9%	18.6%	58.5%	海産物、地酒、無名異焼、竹細工、裂織

※人口は「平成26年10月1日現在新潟県推計人口」、産業構造は「平成22年国勢調査」による。

◆ アンケート結果の特徴

○ 市町村長、市町村教育委員会教育長、校長、PTA会長

- ・最も魅力を感じる高校像は、「起業活動重視型」であった。
- ・「通学したくなる学校」が遠方だった場合の支援として、「寮の設置」の割合が最も高かった。

○ 中学生・高校生及びその保護者

- ・最も魅力を感じる高校像は、「難関大学進学重視型」であった。
- ・「通学したい(させたい)と思った高校」が遠方だった場合の支援として、「交通費の補助」の割合が最も高かった。

◆ 再編整備の概要

平成30年度	
平成31年度 ↳ 平成34年度	
平成35年度 ↳ 平成39年度	・普通科系の高校を統合し、大学進学を重視した学究型の高校を設置する。

検討事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と連携した特色ある高校を検討する。</li> <li>・医療専攻の設置を検討する。</li> <li>・文化芸術系コースの設置を検討する。</li> </ul>
------	--

◆ 平成28年度県立高校の募集学級数等

学科名 (学級数)	普通科系 (7)	中高一貫 教育校 (2)	専門学科系 (0)	総合学科 (3)	定時制 (1)	中学校 卒業者数 489人
割合(%)	53.8	15.4	0.0	23.1	7.7	募集学級計 13
	69.2		23.1		7.7	



◆ 平成39年春のすがた

高校の タイプ	専門分野を 探究する 高校	学科総合型 の産業高校	総合選択制 の高校	大学進学を 重視した学 究型の高校	エンカレッジ の高校	中学校 卒業者数 398人
割合(%)	0	0	45	45	10	募集学級計 11
	45		45		10	

【参考】

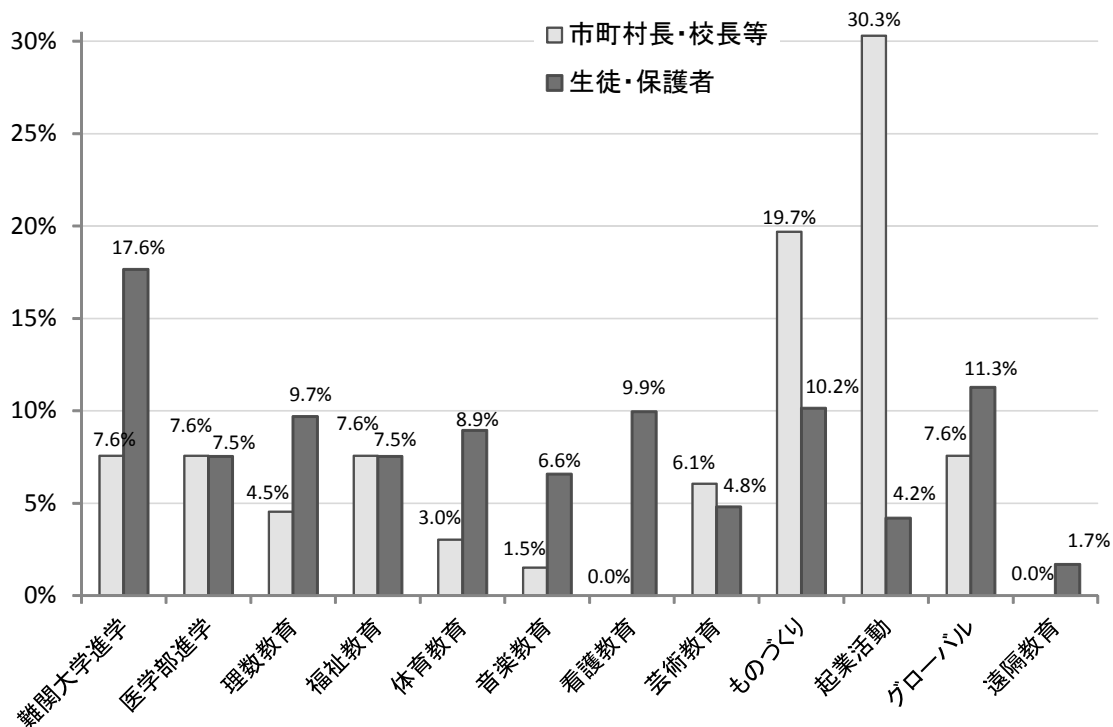
◆ アンケート結果(抜粋)

【質問1】  
 以下のような高校の中で、どの高校が最も魅力的だと思いますか。(ひとつだけ)

---

【選択肢】

1 難関大学進学重視型	2 医学部進学重視型	3 理数教育重視型
4 福祉教育重視型	5 体育教育重視型	6 音楽教育重視型
7 看護教育重視型	8 芸術教育重視型	9 ものづくり重視型
10 起業活動重視型	11 グローバル教育重視型	12 遠隔教育型



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

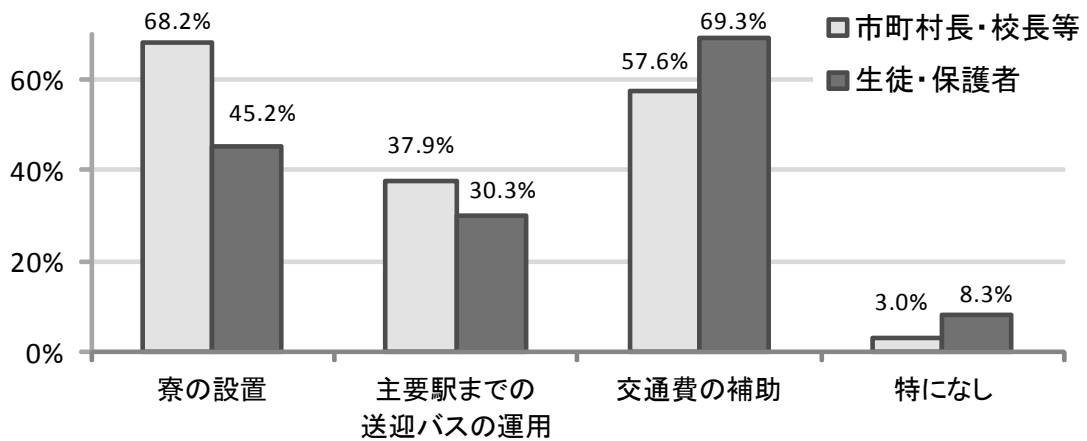
公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

**【質問 2】**

「通学したくなる学校」が自宅から遠かった場合の支援は、どのようなものが考えられますか。(複数回答)

**【選択肢】**

- 1 寮の設置
- 2 主要駅までの送迎バスの運用
- 3 交通費の補助
- 4 特になし



※ 市町村長・校長等

市町村長、市町村教育委員会教育長

公立の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校・特別支援学校の校長及びPTA会長

生徒・保護者

公立の中学校・高等学校の生徒及びその保護者

## V 再編整備の概要【平成30年度～平成39年度】

エリア	年度	H30	H31	H32	
①	中卒者見込	2,154	2,131	2,077	
	前年差	-165	-23	-54	
	計画	○ 西新発田高校をエンカレッジの高校に改組する	メディカルコースを設置		
		○ 新発田南高校豊浦分校を募集停止とする	普通科系の高校を総合選択制の高校に改組		
②	中卒者見込	9,397	9,508	9,186	
	前年差	-575	111	-322	
	計画	○ 阿賀黎明中学校を募集停止とする	普通科系の高校を統合し、		
			普通科系の高校をエンカレッジの通信制課程を設置		
③	中卒者見込	4,011	3,958	3,835	
	前年差	-110	-53	-123	
	計画				
④	中卒者見込	1,443	1,388	1,468	
	前年差	-127	-55	80	
	計画				
⑤	中卒者見込	2,387	2,467	2,379	
	前年差	-290	80	-88	
	計画	○ 上越総合技術高校の学科を改編する	普通科系の高校と総合学科の総合選択制の高校を設置		
⑥	中卒者見込	439	412	396	
	前年差	-41	-27	-16	
	計画				
全県	中卒者見込	19,831	19,864	19,341	
	前年差	-1,308	33	-523	

① 新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村

② 新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町

③ 長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村 ④ 十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町

⑤ 糸魚川市、妙高市、上越市 ⑥ 佐渡市

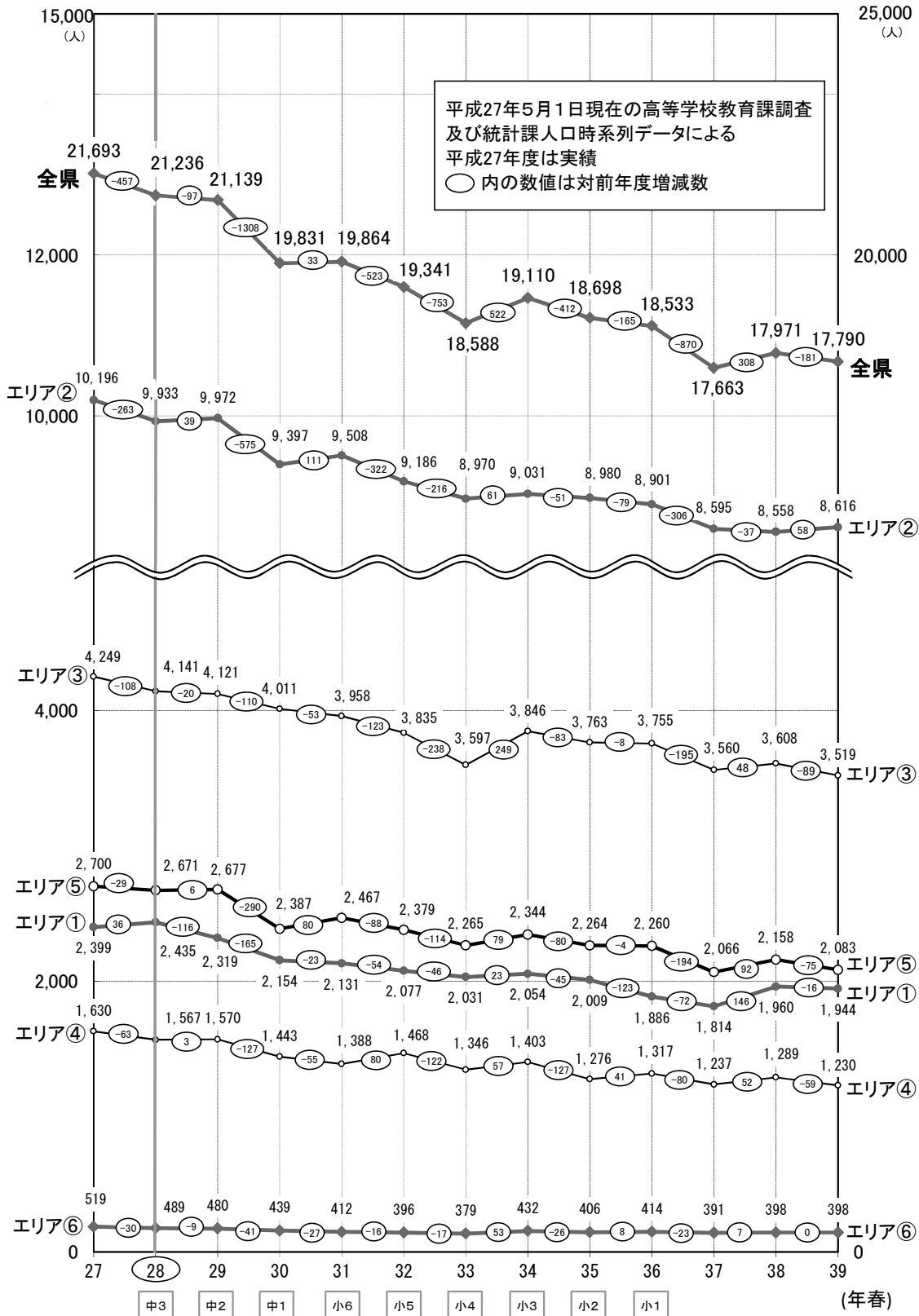
H33	H34	H35	～	H39
2,031	2,054			1,944 (38学級)
-46	23			H34との差 -110
		<p>普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 総合選択制の高校を設置</p> <p>専門学科系の高校を統合し、 学科総合型の産業高校を設置</p>		
8,970	9,031			8,616 (143学級)
-216	61			H34との差 -415
総合選択制の高校を設置		<p>普通科系の高校を統合し、総合選択制の高校を設置</p> <p>普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 総合選択制の高校を設置</p> <p>メディカルコースを設置</p> <p>専門学科系の高校を統合し、 学科総合型の産業高校を設置</p> <p>普通科系の高校と専門学科系の高校を統合し、 専門分野を探究する高校を設置</p>		
3,597	3,846			3,519 (66学級)
-238	249			H34との差 -327
		<p>普通科系の高校を統合し、 大学進学を重視した学究型の高校を設置</p> <p>普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 総合選択制の高校を設置</p>		
1,346	1,403			1,230 (32学級)
-122	57			H34との差 -173
普通科系の高校を統合し、総合選択制の高校を設置		<p>普通科系の高校を総合選択制の高校に改組</p> <p>普通科系の高校をエンカレッジの高校に改組</p>		
2,265	2,344			2,083 (40学級)
-114	79			H34との差 -261
普通科系の高校と総合学科の高校を統合し、 総合選択制の高校を設置		<p>専門学科系の高校を統合し、 学科総合型の産業高校を設置</p>		
高校を統合し、				
379	432			398 (11学級)
-17	53			H34との差 -34
		<p>普通科系の高校を統合し、 大学進学を重視した学究型の高校を設置</p>		
18,588	19,110			17,790 (330学級)
-753	522			H34との差-1,320



# 【資料編】



# 1 中学校卒業生数の推移【平成27年～平成39年】



## 市町村一覧

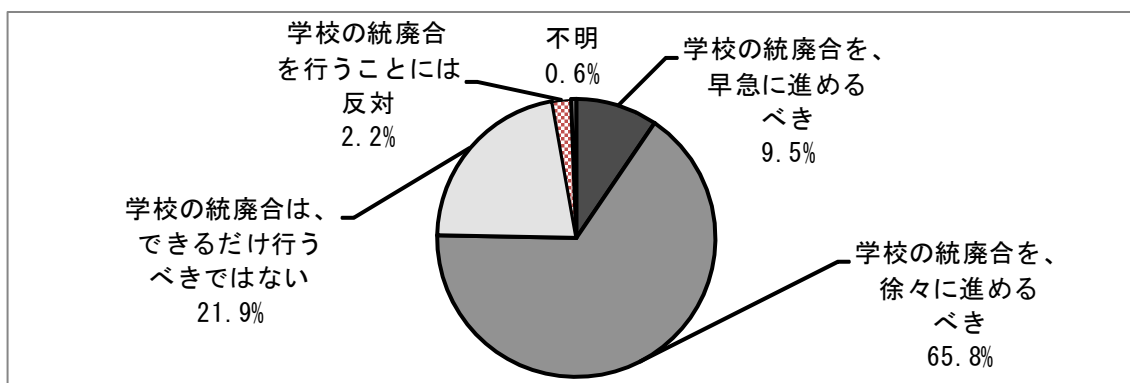
エリア名	市町村名
エリア①	新発田市、村上市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、関川村、粟島浦村
エリア②	新潟市、三条市、加茂市、燕市、五泉市、弥彦村、田上町、阿賀町
エリア③	長岡市、柏崎市、小千谷市、見附市、出雲崎町、刈羽村
エリア④	十日町市、魚沼市、南魚沼市、湯沢町、津南町
エリア⑤	糸魚川市、妙高市、上越市
エリア⑥	佐渡市

## 2 「高等学校に関する調査」結果(抜粋)

Q あなたは、次のことについて、どのように考えますか。

(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

今後少子化が進展する中、高校数を現状のままとすれば、多くの学校が「小規模校」となります。その場合、進路希望等に応じた選択科目の開設や、学校行事および部活動などに影響し、学校の活力や教育力の低下が予想されます。



○ 「学校の統廃合を進める」ことに75.3%が、賛成している。

Q 前問のように考えた理由を、教えてください。

(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

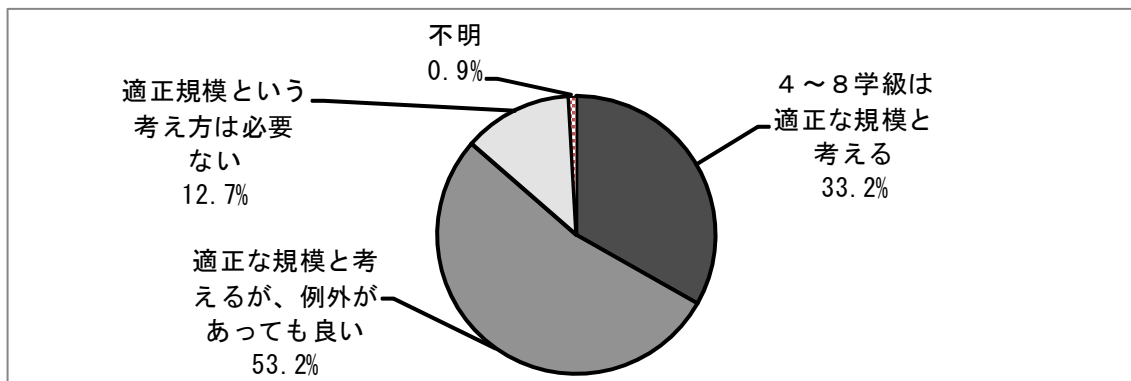
### 【統廃合に賛成している主な理由】

- ◇ 生徒同士が切磋琢磨することにより、学校の活力を維持できる。
- ◇ 学校の小規模化による教育力・活力の低下や生徒間で競争する場面が減少することを懸念する。
- ◇ 小規模校では生徒の人間関係は固定化してしまう。
- ◇ 高校はある程度の規模を維持しなければ一定の水準を保てない。ただし、段階的に進めるべきである。

### 【統廃合に反対する主な理由】

- ◇ 学校の統廃合により地域の活力が失われる。
- ◇ 遠距離の通学による家庭の経済的負担が増加することを懸念する。

Q これまで県教育委員会では、高校の適正規模を4～8学級と考えてきました。このことについて、どのように思いますか。  
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)



○ 例外を認めつつも、86.4%が4～8学級を適正規模と考えている。

Q 適正規模に満たない高校が存続する場合は、どのような条件が必要であると考えますか。あなたのお考えをお聞かせください。  
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

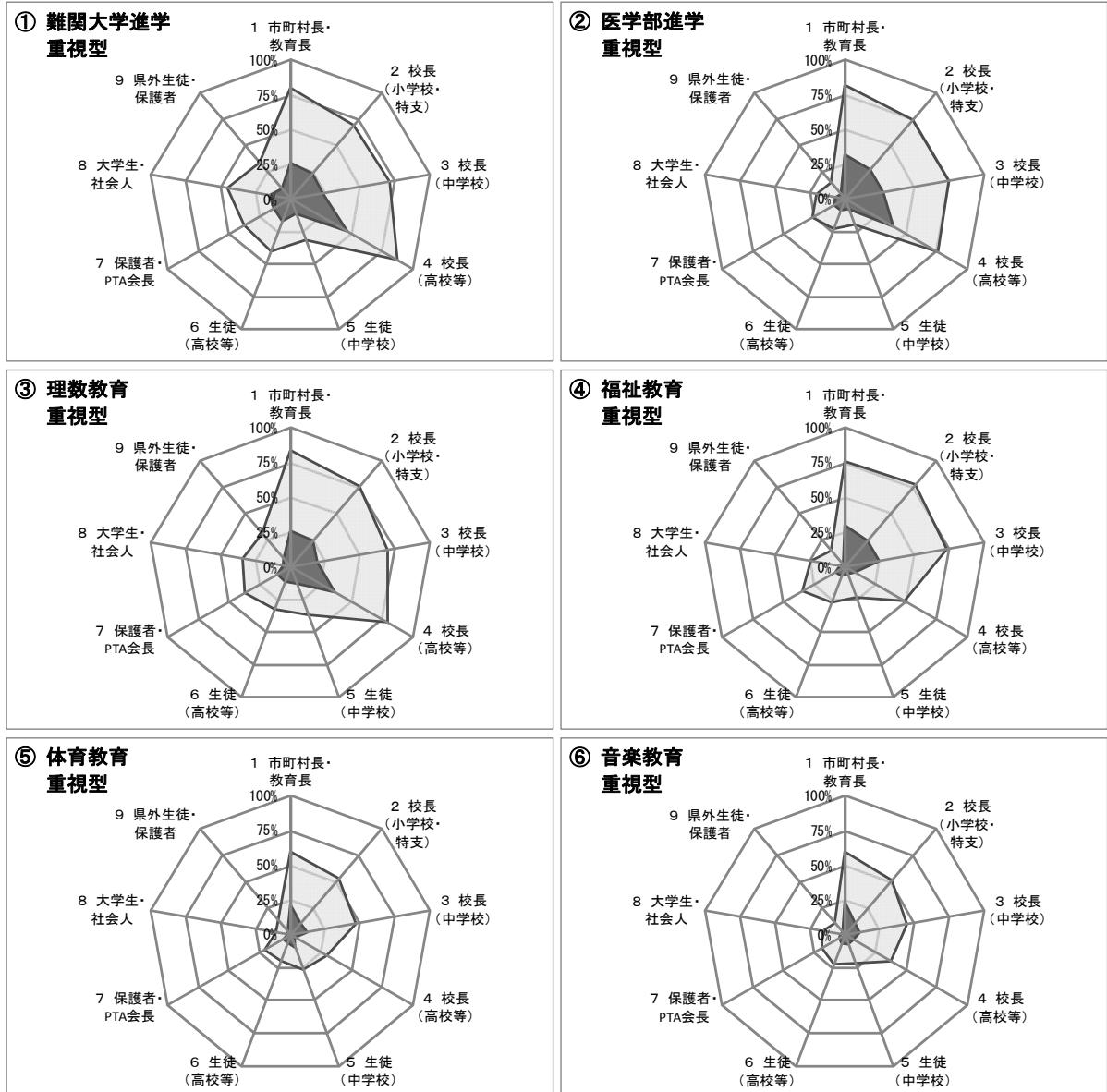
【適正規模に満たない学校についての主な意見】

- ◇ 学校が立地している地域の状況、通学の利便性を考慮する必要がある。
- ◇ 小規模ならでの教育が行われている場合や地域との連携が図られ実績がある場合には、存続を検討する。

Q あなたは、以下のような高校についてどのように感じますか。(全対象者)

- 1 とても魅力的      2 まあ魅力的      3 どちらともいえない  
4 あまり魅力的でない      5 まったく魅力的でない

■ とても魅力的    □ とても魅力的+まあ魅力的

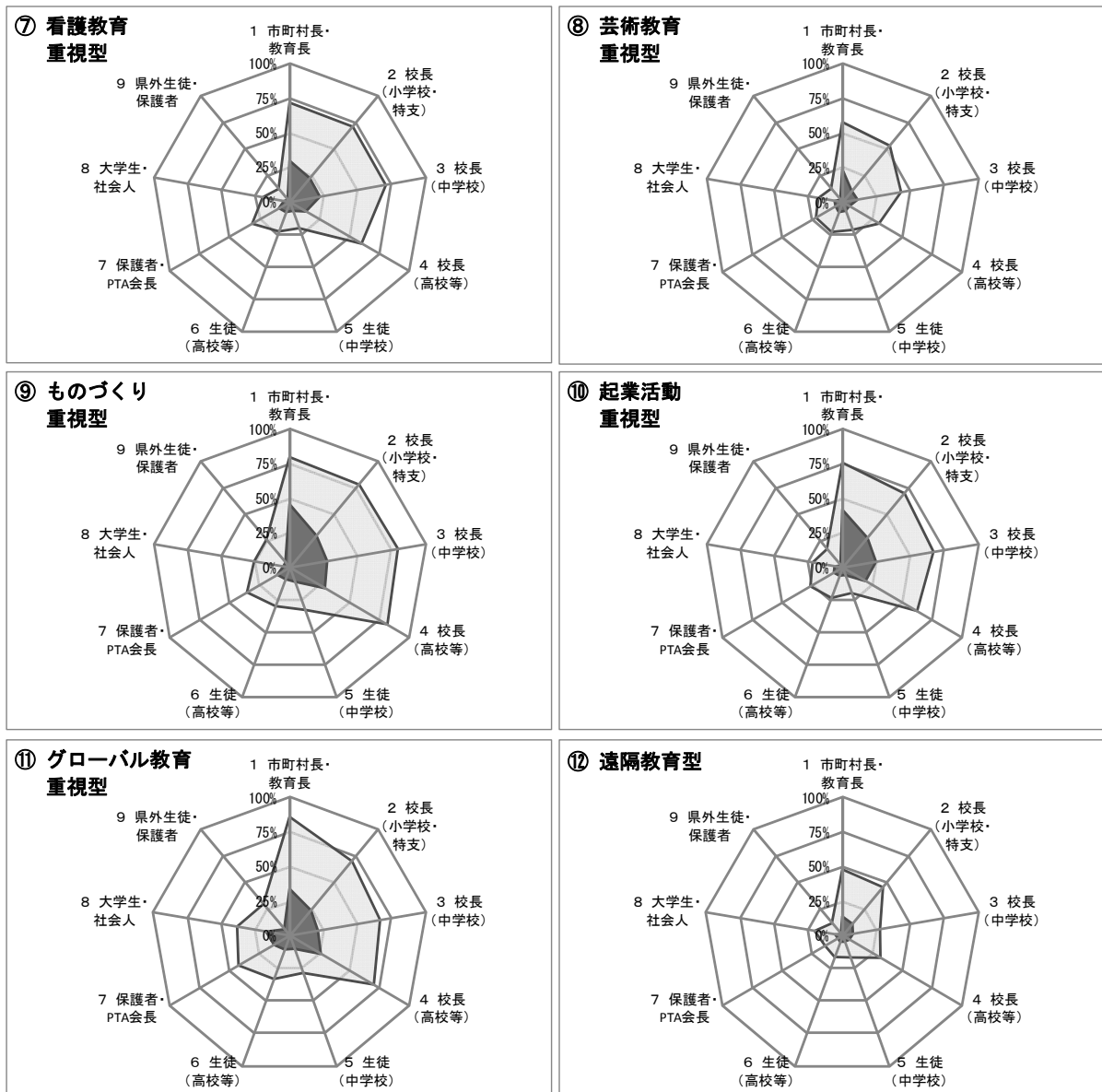


「とても魅力的」の割合

役職等	① 難関大学	② 医学部進学	③ 理数教育	④ 福祉教育	⑤ 体育教育	⑥ 音楽教育
1 市町村長・教育長	26.0%	32.0%	26.0%	30.0%	22.0%	24.0%
2 校長(小学校・特支)	24.1%	<b>3</b> 27.8%	24.8%	24.8%	11.1%	11.3%
3 校長(中学校)	23.3%	<b>1</b> 27.7%	19.4%	<b>3</b> 24.8%	12.1%	10.7%
4 校長(高校等)	<b>1</b> 46.6%	<b>2</b> 39.8%	<b>3</b> 36.4%	8.0%	3.4%	6.8%
5 生徒(中学校)	<b>2</b> 11.3%	7.8%	<b>1</b> 12.7%	5.4%	9.4%	6.9%
6 生徒(高校等)	<b>1</b> 17.0%	8.6%	<b>2</b> 11.2%	6.8%	5.8%	6.3%
7 保護者・PTA会長	<b>1</b> 13.5%	8.8%	<b>3</b> 10.6%	7.7%	5.7%	4.6%
8 大学生・社会人	<b>2</b> 15.1%	<b>3</b> 6.8%	5.2%	3.6%	2.1%	3.1%
9 県外生徒・保護者	<b>1</b> 9.6%	4.4%	<b>2</b> 7.6%	1.8%	3.1%	2.4%

○ 「とても魅力的」の回答は「難関大学進学」、「ものづくり」、「医学部進学」が高く、「とても魅力的+まあ魅力的」の回答は「難関大学進学」、「理数教育」、「ものづくり」が高かった。

○ 市町村長等は「ものづくり」や「起業活動」が高かった。



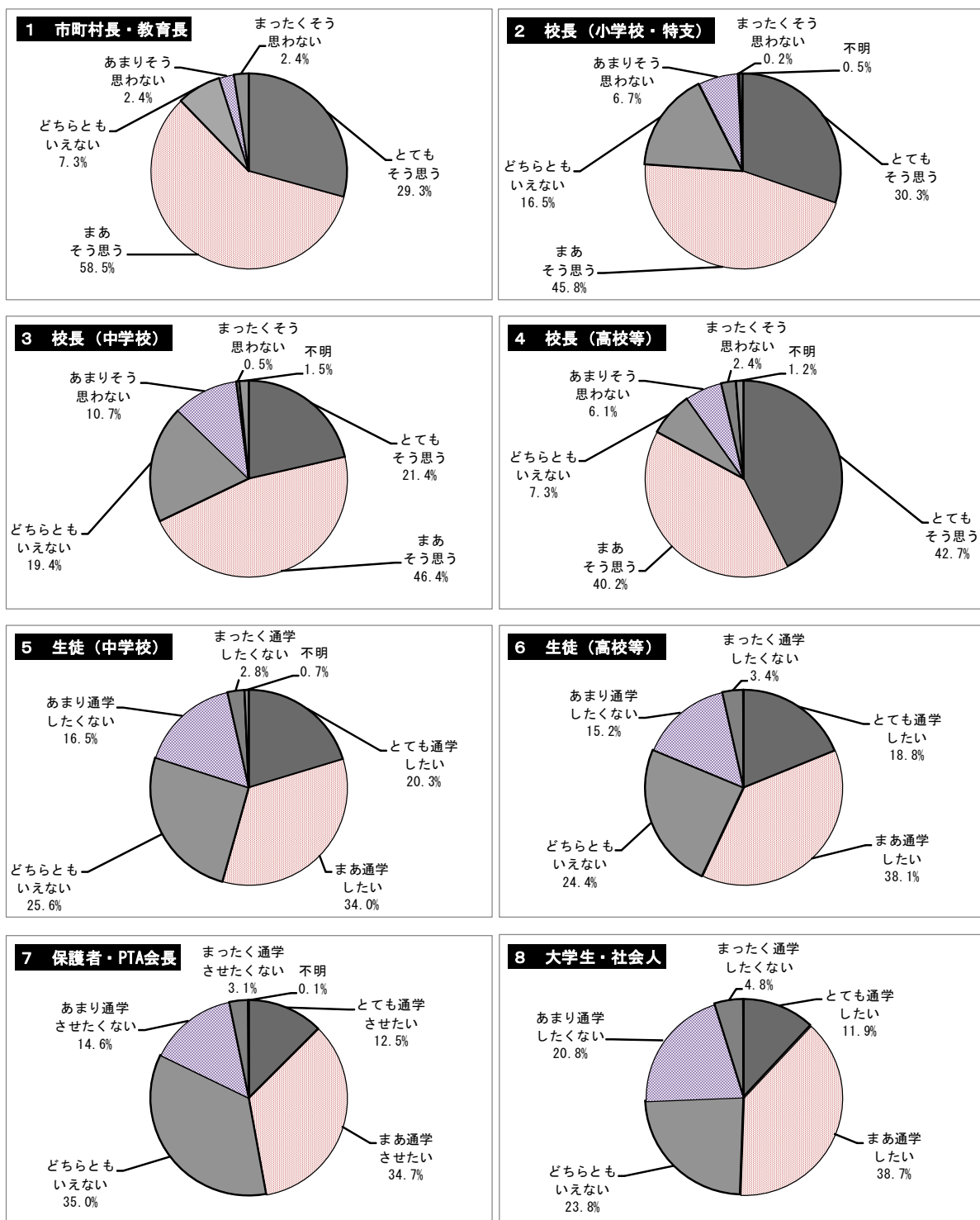
役職等	⑦ 看護教育重視型	⑧ 芸術教育重視型	⑨ ものづくり重視型	⑩ 起業活動重視型	⑪ グローバル教育重視型	⑫ 遠隔教育型
1 市町村長・教育長	30.0%	24.0%	<b>1</b> 46.0%	<b>2</b> 42.0%	<b>3</b> 34.0%	14.0%
2 校長(小学校・特支)	22.7%	10.6%	<b>1</b> 30.3%	<b>2</b> 28.2%	24.1%	11.3%
3 校長(中学校)	22.3%	11.2%	<b>1</b> 27.7%	<b>3</b> 24.8%	20.9%	7.8%
4 校長(高校等)	13.6%	5.7%	29.5%	19.3%	26.1%	5.7%
5 生徒(中学校)	6.8%	6.6%	<b>3</b> 10.7%	5.6%	10.0%	4.5%
6 生徒(高校等)	7.7%	7.5%	8.8%	6.1%	<b>3</b> 10.5%	4.6%
7 保護者・PTA会長	8.9%	5.6%	10.2%	7.1%	<b>2</b> 13.0%	3.6%
8 大学生・社会人	4.2%	5.7%	4.7%	5.7%	<b>1</b> 17.2%	5.2%
9 県外生徒・保護者	2.1%	2.3%	4.7%	2.1%	<b>3</b> 6.2%	1.6%

Q 最も魅力があると選んだ学校は、遠くに住んでいる(例：通学に片道 90分かかる)生徒が通学したいと思うような魅力があると思いますか。

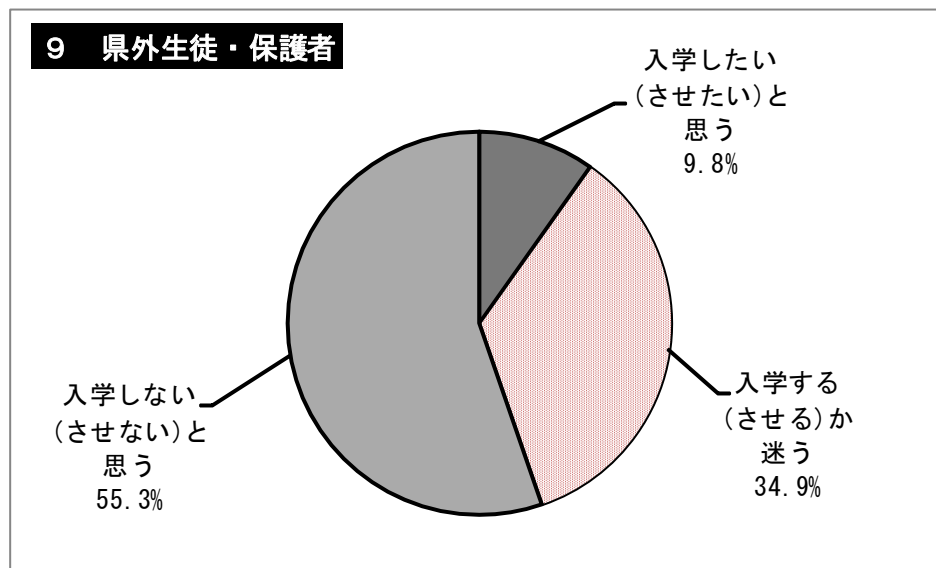
(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

Q 最も魅力があると選んだ学校が、自宅から遠かった場合(例：通学に片道90分かかる)、通学したい(させたい)気持ちはどのようになりますか。

(県内生徒・保護者・大学生・社会人)



Q 最も魅力があると選んだ学校が「新潟県」にあった場合、入学したい(させたい)と思いますか。(県外生徒・保護者)



- 市町村長・教育長、高校の校長は、「とてもそう思う」と「まあそう思う」をあわせると80%以上であり、遠方でも魅力がある学校であれば生徒は通学すると考えている。
- 生徒及び保護者は、「とても通学したい(させたい)」と「まあ通学したい(させたい)」をあわせると47%～57%であり、およそ半数が遠方でも魅力ある学校に通学したい、またはさせたいと考えている。
- 県外生徒・保護者は魅力ある学校であれば、およそ10%が入学したい、またはさせたいと考えている。

Q 「生徒が通学したくなる学校」が、生徒の自宅から遠かった場合、地元としてどのような支援が可能であると考えますか。

(市町村長・教育長・校長・PTA会長)

【複数回答可】

役職等	寮の設置	主要駅までの送迎バスの運用	交通費の補助	特になし
1 市町村長・教育長	24.0%	22.0%	18.0%	<b>1</b> 28.0%
2 校長(小学校・特支)	<b>1</b> 55.3%	49.3%	50.0%	5.8%
3 校長(中学校)	49.5%	<b>1</b> 56.3%	38.3%	4.9%
4 校長(高校等)	<b>1</b> 56.8%	55.7%	28.4%	6.8%

※PTA会長の回答は、次のQで保護者の回答とあわせて集計した。

- 市町村長・教育長は「特になし」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。
- 小学校・特別支援学校の校長は「寮の設置」が最も高く、次いで「交通費の補助」が高かった。
- 中学校の校長は「主要駅までの送迎バスの運用」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。
- 高校等の校長は「寮の設置」が最も高く、次いで「主要駅までの送迎バスの運用」が高かった。

Q 「通学したい(させたい)と思った高校」が自宅から遠かった場合、または新潟県にあった場合(県外生徒・保護者)、どのような条件があれば通学したい(させたい)気持ちが高まりますか。

(県内生徒・保護者・大学生・社会人・県外生徒・保護者)

【複数回答可】

役職等	寮の設置	主要駅までの送迎バスの運用	交通費の補助	特になし
5 生徒(中学校)	31.3%	47.4%	<b>1</b> 56.8%	13.8%
6 生徒(高校等)	33.1%	43.0%	<b>1</b> 55.4%	13.3%
7 保護者・PTA会長	44.8%	51.3%	<b>1</b> 55.6%	9.3%
8 大学生・社会人	37.5%	<b>1</b> 57.3%	56.8%	16.7%
9 県外生徒・保護者	42.7%	19.2%	26.3%	<b>1</b> 47.5%

- 県内の生徒及び保護者は「交通費の補助」が最も高く、次いで「主要駅までの送迎バスの運用」が高かった。
- 大学生・社会人は「主要駅までの送迎バスの運用」が最も高く、次いで「交通費の補助」が高かった。
- 県外生徒・保護者は「特になし」が最も高く、次いで「寮の設置」が高かった。

## 【アンケート調査の概要】

### ○ 調査の目的

新潟県の強みを活かした魅力と活力ある学校づくりが求められていることから、今後の高等学校教育のあり方について検討するために調査を実施した。

### ○ 調査対象

1	市町村長・市町村教育委員会教育長	(回答数 50)
2	校長（小学校・特別支援学校）	(回答数 432)
3	校長（中学校）	(回答数 206)
4	校長（高等学校・中等教育学校＝高校等）	(回答数 88)
5	県内生徒（中学校）	(回答数 2,565)
6	県内生徒（高等学校・中等教育学校＝高校等）	(回答数 3,451)
7	県内保護者・PTA会長	(回答数 6,295)
8	県内大学生・専門学校生・社会人	(回答数 192)
9	首都圏・隣接県の中高生及びその保護者	(回答数 2,324)

### ○ 調査方法及び期間

調査方法	実施期間	対 象
記述	平成27年7月13日 ～7月31日	市町村長・市町村教育委員会教育長・校長 PTA会長
インター ネット	平成27年7月17日 ～8月16日	県内生徒・県内保護者 県内大学生・専門学校生・社会人 首都圏・隣接県の中高生及びその保護者